

# 農業・農村体験で広がる

農業・農村は、子どもたちに、たくさんの“きっかけ”を与えてくれる。からだ全体を通して知性・感性に働きかけ、それぞれの世界を広げてくれる。なぜなら、農業には、人が生きていくために必要なさまざまな要素があるから。それらが互いに結びついて、地域社会が成り立っているから。だから、農業・農村体験を通じて、子どもたちは総合的な「生きる力」を育んでいくことができる。



## 発見する

- ◇さまざまな昆虫がいること、土や水の中にもいろんな生きものがあることに気づく。
- ◇土づくりや水管理、品種改良など、人はさまざまな工夫をしていることに気づく。



## 感じる

- ◇自分で育てあげたお米や野菜、世話をした乳牛や馬に思いを寄せ、いとおしく思う。
- ◇田んぼの泥のぬるぬる、稔った稲の重さ、触ったヤギの鼓動、卵の温かさを感じる。



## 知る

- ◇農作業での体や手の動かし方、重い物や壊れやすい物の扱い方、道具の使い方を学ぶ。
- ◇おじいさん、おばあさんに話を聞いたり、昔の作業を再現して、先人の知恵や努力を学ぶ。

# 子どもたちの世界



## つくる

- ◇農具やツルで昔の生活用具や遊び道具を手作りしたり、間伐材や竹で炭を焼く。
- ◇収穫した作物を使って、味噌やジュースなどの加工食品、地域の伝統料理をつくる。
- ◇体験をもとに作文や観察日記を書いたり、ホームページ、劇やビデオ作品を制作する。

## 考える

- ◇農作業のそれぞれの段階で、なぜ、こうするのか、してはいけないのか、思いを巡らす。
- ◇何か難しいことが起こったとき、失敗しそうなどとき、どうすればいいのか、考える。
- ◇生きもの同士のつながり、自然と人との関わり、自分とそれらの関係について考える。

## 食べる

- ◇生産→加工→流通→料理→食べるまでの過程に興味をもつ。
- ◇野菜など、愛情をそそぎ大切に育てたいのちを、感謝しながらいただく。
- ◇いっしょに働いた仲間や、農家のおじさんやおばさんたちと、団樂のなかで食べる。



## 交わる

- ◇豚や牛や鶏を育てたり世話をするなど、ペットではないかたちで生きものにふれる。
- ◇体験のなかで昔の暮らしと今の暮らしが入り交じり、温故知新を知る。
- ◇子ども同士で育ちあい、子どもと大人が学びあい、子どもと地域、農村と都市が交わる。

### ◆子どもたちの生きる力のもとになる

- ◇農業体験を通じて、子どもたちは知性と感性をバランスよく伸ばしていく。
- ◇時間と空間を他者と共有することで、子どもたちは柔軟性と自発性を育てていく。
- ◇農作物の栽培や動物と接することで、子どもたちはいのちを尊ぶこころを養っていく。

### ◆大人たちや地域が元気になる

- ◇農業体験への取り組みが、親や教師、農の側（生産者・家族）、地域を変える契機となる。
- ◇地元で密着した活動を展開することで、地域性の発見・見直し・創生の手がかりを得る。
- ◇子どもが地域社会に参加することにより、地域全体に活気が生まれる。

(イラスト：長野亮之介)

出典：「農業体験で子どもたちに生きる力を～子ども農業・農村体験のすすめ」

子ども農業体験学習中央推進協議会・文部科学省・農林水産省・全国農業協同組合中央会